

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

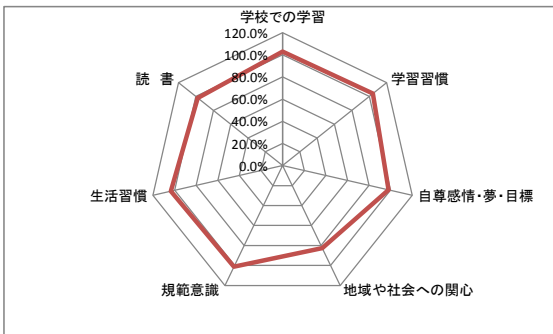
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	読解力を必要とする問題が苦手な傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	短答式の問題	
	努力が必要な問題	読解力を必要とする選択式問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	図形問題が苦手な傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	選択式の問題	
	努力が必要な問題	図形問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	話すことは苦手なようである。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	読むこと・短答式の問題	
	努力が必要な問題	聞くこと・記述式の問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

学力調査の結果からもわかるように、読解力が少し弱い傾向にあるのは、読書の習慣が少ないことと相関関係にあるようである。家庭のご協力により、生活習慣や規範意識は高い状態を維持してきた。家庭学習の習慣づけを課題として、SSノートなど学習習慣の定着に向けた取組の成果が表れ始めている。入学当初は自信のない生徒が多かったが、現在では学校行事の主役となり大変活躍しているので、学校のアンケート等の結果から自尊感情が改善しているものと思われる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

話し合い活動を通じた学び合いの中で、お互いを認め合い成長できる集団づくりを進めてきた。その結果、4月時よりも進路に向けた目標を前向きに持って取り組んでいる。今後も努力する生徒を認め合える集団づくりを授業を通して育てていく。また、朝自習等を活用し、読書の機会を増やしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

本校では、質問教室や家庭学習お助けプログラム、職員室前の机設置等、時と場を設定しながら家庭学習の習慣づけの支援を続けている。また、委員会活動によるコンクール等で生活習慣の改善への取組を進めている。